

子どもの本だな 120

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

あくたれラルフ

ジャック・ガントス さく ニコール・ルーベル えいしい ももこ やく (福音館書店)

セイラのねこ、ラルフはあくたれでした。テーブルにあるクッキーをどれも一口ずつかじって、パーティーを台無しにしたり、お母さんの飼っている鳥を追い回したり。

ある晩、家族でサーカスを観にいきました。隣の席の犬がうるさいので、ラルフは風船を犬の首輪にくくりつけ、ライオンの檻のほうへ飛ばしました。その後も、ブランコにぶらさがったり、馬から曲乗りをしている人をつきおとしたりと大暴れ。怒ったお父さんは、ラルフをサーカスに置き去りにしました。サーカスでのきつい生活に我慢できなくなり、逃げ出したものの、やせ細り生ごみ熱にかかってしまいました。

セイラに見つけられ、家族のもとに帰るまでが、原色が多く使われながらも調和のとれた絵でユーモラスに描かれています。家族の温かさやラルフの安心感がよく伝わります。読んでもらえば4歳から楽しめます。(竹内)

トムは真夜中の庭で

フィリパ・ピアス 作 高杉 一郎 訳 (岩波書店)

夏休み、弟がはしかになったため、トムはおじ夫婦の家に預けられました。古い邸宅を改造したアパートには庭も友達もなく、トムは退屈でたまりません。

真夜中、玄関ホールの大時計が13回打ったのを聞いたトムは、ベッドを抜け出し階段を降り、導かれるように裏口のドアを開けました。するとそこには日の降り注ぐ美しい庭園が広がり、古めかしい服を着た邸の人々がいました。人々にはトムの姿は見えず、少女ハティだけがトムを見つけました。その日からトムは毎夜庭を訪れ、ハティと一緒に木の上に隠れ家を作ったり、凍った川でスケートをしたり楽しい時を過ごします。時間の流れが違う庭園は、毎夜訪れるたび様子が変わりました。そしてハティはどんどん成長し、やがて大人になりました…。

ヴィクトリア時代のイギリスの風景や庭園の情景描写は美しく、緻密に構成され紡がれた物語に読者は引き込まれます。2人の時が重なる思いがけない結末は感動的です。11歳位から。(池之上)

11月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						



▶ ×印は休館日

(11/6、11/24 は祝日の振替)
11/30、12/28 は館内整理日
12/29～1/3 は年末年始休館)

※閉館時は返却ポストをご利用ください。ただし、年末年始休館中は利用はできません。

▶ 開館時間は 10:00～18:00、
金曜日は 20:00 まで開館

『ビジュアル・シンカーの脳 「絵」で考える人々の世界』 テンプル・グランディン 著

中尾 ゆかり 訳 NHK出版 325 頁 2023 年 7 月刊 2,400 円 (請求記号)491.3

私たちの社会は言語で成り立っている。言語で理解し表現するよう教育され、言語が思考の土台であるのが当然だと考えられていた。ところが、絵で考える人々——具体的なものを思い描いて考える「物体視覚思考タイプ」や、パターンや抽象概念で考える「空間視覚思考タイプ」——が存在するという。

著者は、『動物感覚』『動物が幸せを感じる』などを著した動物科学者であり、物体視覚思考者だ。彼女の頭には、検索画像をスクロールしたり、ショートムービーを見たりしているように、視覚的なイメージが次から次へと浮かび、画像で考える。20代で牛の行動研究をしていたとき、牛の視線で見るために、牛の通路に飛びこんだ。その行動は周囲を驚かせたが、彼女にとってはごく自然なことだ。自分の思考法がほかの人と異なることを知らなかったが、その独特な視点は動物関係の仕事に進むきっかけとなり、今でも、あらゆる動物の視点にたつて考えている。彼女の記憶は写真のように精緻で、細部まで正確に再現してシミュレーションする。そのため、ほかの人が見逃す異常や欠陥、危険を見つけるのが得意だ。言語情報に感わされることもない。経験を積むごとにデータが増えるため、より明晰に考えられるようになったが、膨大な画像データにアクセスするため、次々と話題を変え、早口で話されるのは苦手だ。学校では苦労も多く、抽象的で視覚化できるものがない代数は苦手だった。思考法は二者択一ではなく、大方の人がそのあいだにあてはまる。思考の特性を知り、適した学習内容で個々の能力を十分に伸ばし、社会で活かすことができたなら、社会はもっと強くなる。多様な思考者が協力し補い合うことで、目まぐるしく変化する社会で創造し革新する能力を取り戻そうと、訴えている。

他者が協力するには互いに理解が必要だが、それは簡単ではない。まずは存在を知ることが理解への一歩だろう。本書では最新の研究調査や多くの実例、体験談を紹介するとともに、最終章では著者の長年のテーマである動物の思考・感情についてもふられている。

(秋澤)

11月	12月	11・12月の移動図書館(いずれも木曜日です)			
9日	7日		福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~ 15:20	竹広南 公民館 15:30~ 15:50
16日	14日		原池団地 公民館 15:00~ 15:20	山田 掲示板前 15:30~ 15:50	原 太田東地区 農村交流 センター 16:00~16:20
23日	21日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20	塚森 地域内 15:00~ 15:20	太子 ニュータウン 公民館 15:30~ 15:50
					吉福 公民館 16:00~ 16:20

< お知らせ >

クリスマスカードを作ろう!

消しゴムはんこをおして、「しおり」や「カード」を作ろう!

・日時:

- ①12月9日(土) 14:30~15:00
- ②12月9日(土) 15:00~15:30
- ③12月10日(日) 10:30~11:00
- ④12月10日(日) 11:00~11:30

・対象:4歳以上の子ども

・定員:各回3組まで

・申込:太子町立図書館



地下水

先月開いた「ちいちゃい秋まつり」で子どもたちに職員手作りのゲームをたのしんでもらった。おみくじや自分で作る紙の鯛焼き、射的や魚つり。子どもたちのにぎやかな声がひびいた。紙の鯛焼きの本を借りて帰ったSちゃんは家でたくさん作って楽しんでそう。また秋まつり当日、折り紙のトリケラトプスを大事そうに持ってカウンターに来た親子がいた。聞けば、それは去年図書館でもらったもので、作り方がどうしても知りたかったらしい。今回の秋まつりでも同じものが出してあり、それに出版の本が記されていたと、喜んで借りて帰られた。こうやって、本が子どもたちの手に届くように日々努力をしている。

毎週土曜日の「おはなしの時間」もその中心的なもののひとつ。イギリス女王を図書館児童室に迎えたこともあるアイリーン・コルウェル女史は『子どもと本の世界に生きて』(こぐま社)の中で「子どもに喜びを与え、本に興味をもたせ、自分から本に手をのばすようにさせる手段として、お話は非常に効果的です」と述べている。3年生のクラスに「かしこいモリー」を語ったとき、夢中で大きく子どもたちの姿に、お話を力を入れて実感したところだ。ぜひ「おはなしの時間」に来てみてください。

(西村)